



虫たちのかくれんぼ

〜どこにかくれているか見つけてみよう!〜



虫の中には、自然に溶け込んで目立たないもの、それとは反対に黄色と黒、赤と黒、といったようにわざと目立つようになったものがある。でも、どうしてかくれんぼするんだろ? それは、こわいハンターが、おいしい獲物はなにかといつも狙っているから。小さな虫たちも何とか生き延びて、子孫を残そうと必死。あるものは枯葉に、あるものは枝に、あるものは木の幹に、木のかぶに化けて生き残りをかけたかくれんぼをしている。

葉に化ける



小型のヤガの仲間



ウスイロコノマチヨウ



キアエコノハ



かくれんぼのチャンピオ

かくれんぼのチャンピオンはコノハチヨウだ。やんばるの森に暮らす枯れ葉に似たこのチヨウは、木の幹に止まるときは必ず頭を下向きにする。頭を食へられないように工夫しているんだね。



鳥の糞に化ける



コウクラエダシヤウ



アゲハチヨウの仲間の幼虫

花に化ける



アスチグモの仲間

花にそっくりな体で待ちぶせる。

木の枝や、こぶに化ける



オオミノガのミノ (幼虫の巣)



シヤクガの仲間の幼虫



ヌズメガの仲間の幼虫

樹皮(木の皮)に化ける



カレハガの仲間の幼虫



シヤクガの仲間の幼虫

※シヤクガの仲間の幼虫を俗に「シヤクトリムシ」と呼びます。



オキナクナナツシ

コクナナツシ

枯れ枝や木のかぶにそっくり。上が♂、下が♀。



Vol. 17 虫たちの身の守り方

虫たちの身の守り方は大きく分けて2種類あるんだ。1つは、このページにのっている虫たちのように植物に化けたり、ふんに化けたりして**自立** **たない**ことで身を守る方法。

もう1つは、赤や黒、オレソシ、黄色などの目立つ色のしま模様や水玉模様で相手に「危険だよ」と警告して**自立**つことで身を守る方法がある。目立つ方法を使う昆虫は体に毒を持っていたり、ハチなどのように攻撃できる針を持ってたり、あるいはいやな匂いを出したり、食べてもまずかったりするんだ。他に毒もないのに毒を持っていて姿に似せて敵から身を守っているチヨウもいるよ。

なはエコ博士のなるほど講座





カエルたちの大合唱



カエルやおたまじやくしが見られる水辺も少なくなつた。クワクワ鳴いているカエルを観察してみると、まるで風船のようにのど「唄のう」を大きくふるくませている。ちよっぴりユーモラスでかわいいいカエルたち。



キウコ
リョウコ...

リュウキウコジカガエル

渓流に生息する本土のカジカガエルと違い、本種は平野から山地、河川など様々な場所に生息する。



クエ
クエ

ヌマガエル

平野から沼や田んぼなどの水辺をすみかとする。人里近くでも数が多く、なじみ深い。那覇市近辺では近年少なくなつた。



ゴ
ゴ...

オキナワアオカガエル

日中は葉の上などに身を潜め、擬態に自信があるためなかなか逃げない。鮮やかな緑色のかわいいカエル。



卵

シロクマガエル

外来種で1960年代に初めて嘉手納で1個体が採集されたことから、軍事物資にまぎれてインドシナ半島から侵入したとされる。上あごの周囲が白く縁取られていたことからシロアゴカエルの和名がついた。



ビチ
ビチ...

ヒメアマガエル

びよんびよん跳ねて捕まえにくい。体に比べて頭部が小さい。溪流、田、畑など様々な場所で見られる。小さいながら唄(めい)のうがが大きく、鳴き声も大きい。



トカゲやヘビの暮らす森



森の下草の上にはアオカナヘビがいて、木の幹にはキノボリトカゲがいる。落ち葉の下にはさっと動くヘリクロヒメトカゲ、樹肌にまぎれるミナミヤモリ、アカマタなどのヘビもいたりする。それだけ自然が豊かな証。



ヘリクロヒメトカゲ

足が短く、落葉の下などをはいずりまわりやすいようになつていいる。驚くと泳ぐように落葉の下に逃げ込むかわいイトカゲ。



アカマタ

全長80~185cm。腹面は白色~黄色。背面は赤~赤褐色の地に黒~黄色帯が見られる無毒のヘビ。カエル、ヘビ、小型ネズミなどを食べる。



ミナミヤモリ

鳴かないヤモリ。家のなかではなく森や御嶽林などにすんでいる。



アオカナヘビ

尾が長く、細長いカナヘビ。体は緑色で横腹にたてすじが入る。昔から身近なトカゲとして子供たちに人気がある。



オキナワキノボリトカゲ

奄美・沖縄諸島に分布する。オスは全長20cm以上になる。メスはそれより小さい。樹上性で、森林中ではよく見られるが、林に近い庭木にもよく見られる。沖縄では「守り神」とされていいるヤモリだけと、昨日元気に「ケツケツツ」と鳴いていたのが、翌日雨戸にはさまつていいる光景をたまに目にする。少し寂しいヤモリ...



ホオウロヤモリ

「ヤモリ」の方言名でおなじみ。家の壁、天井で「ケツケツケツツ」と笑つていいるかのよう鳴く。灯りの回りには昆虫が集まるので、よく電灯の近くにくる。

Vol. 18 忍者ヤモリ参上

垂直な壁やガラス面も忍者のように歩くことができるヤモリ。その足の裏は吸盤みたいになつていいると思われいいるけど、実はかき爪の細かな毛がびっしりと生えた、幅広いうろこ(指下板という)が並んでいる。これを利用して走っている。沖縄では「守り神」とされていいるヤモリだけと、昨日元気に「ケツケツツ」と鳴いていたのが、翌日雨戸にはさまつていいる光景をたまに目にする。少し寂しいヤモリ...

なはエコ博士のなるほど講座



トカゲは天敵におそれられると尻尾の刺激にも尾が簡単に切れてしまう。切れた尾はしばらくの間ピンピンはねまわり、天敵は切れた尾に注意を向けるためトカゲは安全なところへ逃げることが出来る。でも切れたときにほとんど出血はない。尾の切れた部分はしばらくすると再生する。

Vol. 19 トカゲのしっぽ切り



鳥たちの好きな場所



～環境ですみ分ける野鳥～

鳥にも好きな場所があって、深い森が好きなお鳥、水辺が好きなお鳥、草原が好きなお鳥、街が好きなお鳥、干潟が好きなお鳥...というふうにはさまざまな環境を利用して生きている。新都市の森は、水辺あり、草原あり、森もあり、のいろいろな環境が一緒になって成り立っている。もちろん渡り鳥たちもやってくる。冬に、暖かい沖繩の森で過ごし、春には旅立ってく鳥たち(冬鳥)。夏には子育てのために南から渡ってくる鳥たち(夏鳥)。春と秋に渡りの途中で羽を休める鳥たち(旅鳥)。どこにも渡らずに一年中ここで暮らす鳥たち(留鳥)。そんな鳥たちとここで出会える。



一番身近な鳥で、だいたい集団で行動する。草の種が大好きで、ススキや雑草のあるところをよくみかける。他に妙浴びもする。
ススキ (留鳥)



「月、日、星木イホイホイ」と鳴き声が聞こえることからサンコウチヨウ(三つの光るもの)と呼ばれる。オスは尾が長いのが目立ち、オス、メスとも目のまわりはあざやかなコパルトブルーをしている。夏に子育てのために渡ってくる。
リウウキヨウ **サンコウチヨウ** (夏鳥)



新都市の森にもときどきやってくる。小鳥を餌とするため、豊かな自然がなければ生きていけない。
リウウキヨウツミ (留鳥)



新都市には毎日いる。大好物の草の種もあるし、水浴びも好き。
シマキンバラ (留鳥)

Vol. 20 「つっさしびり！」と鳴く鳥は何?

「いつも“つっさしびり!”って鳴くのは何の鳥?頭が白くて...」と女の子が不思議そうに聞いた。ある男の子は“チヨコリットくれ”と聞こえ、ある中年のおじさんは“借金返しちぐり”と聞こえるという。お姉さんには“ソフトクラーへム”と聞こえた。この声の持ち主は全部同じ鳥で名前はシロガシラ。女の子にとってシロガシラはお友達のように思えたんだね。男の子はハビントライナーの前だったのかな? 同じ鳴き声でもその時の気持ちでちがったように聞こえるのは面白いね。みんなはどんなふうに聞こえるかな?

なはエコ博士のなるほど講座



バードハウ巣コレクション



春になると森の小鳥たちも鳥に忙しくなる。ハゼノキのてっぺんではシロガシラが翼を広げて、かっこいいところを見せているよ。メシロだって負けていない。木の高いところで、上手に歌を歌っている。それもこれも、みんな子孫を残すためにがんばっているんだ。そんな鳥たちも巣の形はいろいろ。それぞれの遺伝子に巣の設計図がちやーんと記録されている。子供を安全で快適な環境で育てる努力は人間と一緒にがんばる。



キシバト



ヒヨドリ



セッカ



シロガシラ



メシロ



ウグイス

注意

野鳥の巣近づかないで

春から夏の間(3月～8月)は野鳥の子育ての季節です。この期間の巣の観察はひかえましょう。(キシバトは季節と関係なく子育てするので気をつけましょう。)親鳥は卵やヒチを守るためとても神経質になり、人が近くにいると巣に入れなくなり、ヒチに食事を与えることができなくなります。また、人がのぞいたりすると、びっくりしたヒチが巣から落ちてしまうことがあります。巣の近くで落ちていたヒチをみかけたら、そっと木のうへなどにのせてあげましょう。人間が近くにいると親鳥がヒチに近づけないので、すぐにその場からはなれませう。そうすると親鳥がヒチのもとに戻ってきます。